

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	ASIAN MYELOMA NETWORK STUDY OF THE NATURAL HISTORY OF RELAPSED/REFRACTORY MULTIPLE MYELOMA AFTER PROGRESSION ON ONE OR TWO PRIOR LINES OF THERAPY (1次又は2次の前治療で進行後の再発性／難治性多発性骨髄腫の自然経過に関するアジア骨髄腫ネットワークの研究)
研究責任者	Wee Joo Chng / 石田 禎夫
研究機関名	シンガポール国立大学病院 / 日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>多発性骨髄腫は近年、治療の進歩によって、その治療成績が急激に改善してきます。しかしながら、再発などを繰り返してしばしば治療に難渋することもあります。また治療薬が様々登場してきていて、その治療効果を比較するのが複雑になっています。今回、アジアの骨髄腫ネットワーク全体で、現在の再発骨髄腫患者さんの治療成績を振り返って検討し、そのデータをまとめようとする研究が発足しました。今回の治療成績が今後の治療成績を検討する際の礎となり、さらなる治療戦略の改善につながるができると考えられます。</p>
研究方法	<p>【協力をお願いする内容】</p> <p>1. 研究対象者 当院で2020年1月から2022年2月までに当院で多発性骨髄腫に対する治療を再発治療として受けた患者さんが対象となります。</p> <p>2. 研究方法・研究協力事項 電子カルテから診療情報を調べさせていただきます。複数の情報を電子カルテから調べさせていただき、統計的な手法を用いて、前治療数によって層別化された治療の結果や、治療結果に影響を及ぼす因子について解析を行います。</p> <p>3. 研究対象者にもたらされる利益及び不利益 本研究の結果が、情報を提供した人に直接利益となるような情報をもたらす可能性はほとんどありません。観察研究であり、治療介入もないために研究協力費、あるいは診療費の補助もございません。また不利益がもたらされることもございません。</p> <p>4. 研究対象者への身体的な侵襲 今回の研究で新たに侵襲的な検査を行うことはありません。今までの既存の情報のみを利用させていただきます。</p> <p>5. 研究協力の任意性と撤回の自由 この研究に参加されなくても、あなたのこれからの治療に差し支えることは全くありません。今まで通りに何ら不利益を受けることなく診療が行われます。一旦参加した場合でも、あなたが不利益を受けることなく、いつでも不参加を表明することができ、診療情報などもそれ以降は研究目的に用いられることはありません。ただし、同意を取り消した時点で研究結果が論文などで公表されていた場合などのように廃棄することができない場合があります。不参加を表明したい場合には下記の問い合わせ先までご連絡ください。</p> <p>6. 個人情報の保護 本研究で取り扱うあなたの情報は個人情報と特定されるような情報は含まれません。また診療情報と個人が直接結びつけられるような形での管理はなされず、別のファイルにそれぞれパスワードがかけられ、それぞれのファイルからは個人を特定できないような形になっていて、仮に第三者がこのファイルをみてもどなたのものか一切わからない形で使用します。</p> <p>7. 診療情報について 本研究で使用する診療情報は6.に記載したように個人情報と特定されるような情報は含まれていません。この情報は本研究ではシンガポール国立大学病院に提供されます。シンガポールにおいてもPDPA (personal data protection commission) という個人情報保護法が存在し、個人情報の保護に努めています。ただし今回は提供される情報自体に個人情報が含まれませんので当該機関において個人を特定することは不可能です。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：菊池 拓 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>